



# 浦和大里小学校だより

8・9月号 令和7年8月27日発行

教育目標  
夢と希望をもち、  
人間性豊かで  
心身ともに  
たくましい子の育成



## 選んだ道の行く先は

校長 中野 緑

静まり返っていた校舎が子どもたちの声にあふれ、生き生きと呼吸をし始めました。夏休みの終わりには、育成会の皆様による「ラジオ体操」や、PTA企画「水かけ祭り」が校庭で行われました。楽しそうな子どもた

ちの顔を久しぶりに見ることができ、2学期に向けてスイッチが入りました。ありがとうございました。

始業式が近づくにつれて「早く学校に行きたいな」「友達に会うのが楽しみ」とお子様が話せばホッと安心ですが、「学校・・・いやだなあ。面倒だなあ。」とつぶやく姿に心配になった方もいらっしゃるかもしれません。ですが、面倒だと感じるのは当たり前のことです。自分のやりたいことを自分のペースでできる夏休みに比べたら、学校は、苦手なこともやらねばならず、集団生活に伴う様々な制約もあるからです。まずは登校できただけで花丸！面倒な気持ちを上回る充実感が得られるよう、教員一同努力するのみです。

さて、実家で過ごすお盆休み、私の父が社会人2年目の私の息子に話しかけました。「自分が若いころは、返事は『ハイ！』以外はなかった。苦しくてもそうやって仕事を覚えたものだ。」息子はニコニコ聞いていましたが、私は「60年前と今は違うよ・・・」と少々冷ややかな思っていました。しかし、続いた言葉に、思わず大きく頷いていました。「楽な方を選んでいると、それが癖になるからな。」

日々の生活は選択の連続です。ジャガイモを使って何をつくる？ 車内に転がる空き缶を拾う？ 拾わない？ 期限が迫った仕事を今日する？ 明日にする？ 日々の生活で繰り返し選択する生き方は、やがて自分の身について、第二の天性になっていくものであるといわれます。道を選ぶ基準を「楽な方」とする選択を繰り返し、それで日々が無事過ぎていけばよいかもしれませんが、よりよい自分を目指して努力する過程もまた喜びが多いもの。学校は、自分一人ではきっとやらないだろうことに挑戦したり、友達の姿に刺激を受けて勇気を奮い立たせたり、ぐっと我慢したりする経験ができる場所です。選んだ道の積み重ねが人生です。様々な経験を通して自分を磨き、自分の未来をしっかりと歩む練習をしていきましょう。

さあ、2学期の始まりです。保護者の皆様、地域の皆様、子どもたちにどうぞ前向きな言葉のシャワーをかけてあげてください。子どもが困難な道を選んだ時には、どうぞその心意気を称賛してあげてください。強くしなやかな心をもつ子どもたちを、大人総がかりで育ててまいりましょう。